



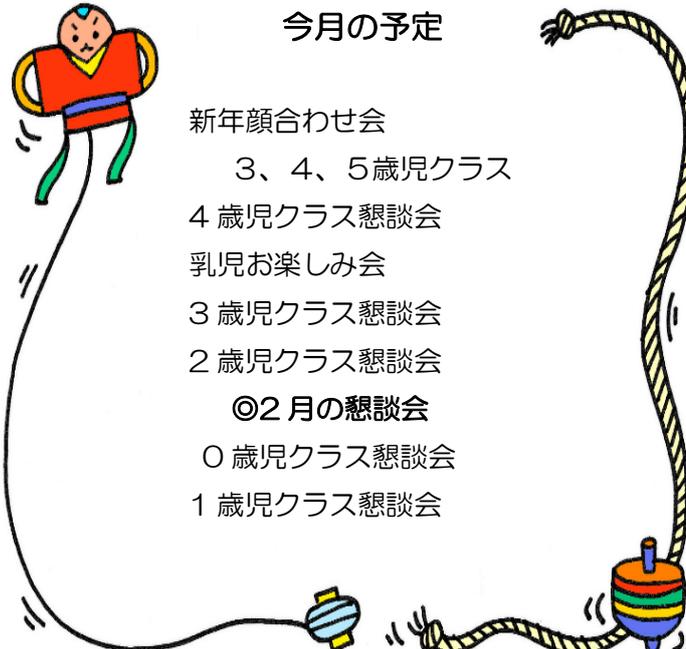
令和6年1月4日
目黒区立駒場保育園園長

明けましておめでとうございます。皆様にはよいお年を迎えられたことでしょう。お正月の後は食べすぎや生活リズムの変化など疲れが出やすくなります。できるだけ早めに規則正しい生活を心がけ、体調管理に気を付けていきたいと思います。

先日土曜日のことです。0、1歳児が室内で一緒に遊んでいる時、0歳児が10cmほどの高さの牛乳パック積み木に乗ろうとしていたので、同じ高さで表面積があり乗った時に安定する巧技台の蓋を用意すると、近づいて行き片足を上げてそっと乗りました。さて、どうやって下りるかなと様子を伺っていると視線で“ちょっと手伝って”と言っているようでしたので、手を差し出すと大人の指先を持って、片足ずつ下りていました。それを何回か繰り返していましたが、1歳児も同じくこちらは身軽に乗り下りしていました。それを見ていた0歳児が次に上った後、台の端まで行くと大人の手を借りずに“それっ”というように一人で下りることができました。ほんの数分前までは恐る恐る乗り下りしていた姿から、繰り返し行い体の使い方を学習しながら1歳の姿を見て模倣し獲得した姿に、子どもの持っている力を感じました。そんな子どもの伸びようとする姿を、援助していきたいと思います。

今年もあと3か月で進級、卒園の時期を迎えます。一人ひとりの育ちを確認しながら、今日もたくさん遊んで楽しかったと思える活動や体験を行っていきます。お子さんのことや園運営等に関してご質問等ありましたらお気軽にお尋ねください。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

今月の予定

- 
- 新年顔合わせ会
 - 3、4、5歳児クラス
 - 4歳児クラス懇談会
 - 乳児お楽しみ会
 - 3歳児クラス懇談会
 - 2歳児クラス懇談会
 - ◎2月の懇談会
 - 0歳児クラス懇談会
 - 1歳児クラス懇談会



看護師の健康教室「手洗い」



感染症が流行しやすい季節を前に、職員と幼児クラスは手洗い方法を学びました。3歳児はバイキンスタンプを手の甲に押し、手の甲と手の平を合わせて念入りに洗っていました。職員と4、5歳児は蛍光剤が入った専用クリームを手塗り、手洗い後にブラックライトで確認しました。洗い残しが多く白く光っている手を見て驚きすぐに手洗いを再開し、石鹸泡がなくなると追加する姿がありました。後日一緒に手洗いをしていると「洗うところみせてあげる」と言って指の間や親指の付け根を丁寧に洗う姿もありました。正しい手洗いが継続できるよう時折確認していきたいと思います。

食育 ひよこ組

ひよこ組はベランダのプランターでラディッシュを育てました。収穫の日、子どもたちは葉を触り、保育士が1つ抜いて見せるとジッと見えています。子どもたちも葉をつかんで引っ張りますがなかなか抜けません。少し抜きやすいようにしてあげ「うんとこしょ、どっこいしょ」のかけ声と共に抜くことができました。「すごーい。抜けたね」と拍手をすると嬉しそうに笑いながら拍手をしていました。丸くて赤いラディッシュを見るとそっと触れ、手に持つと笑顔を見せて子どもたちなりに楽しさを感じた収穫となりました。

<今月は3、4、5歳の戸外遊びの様子を紹介します >

さくら組 「一緒に嬉しい」

園庭では、タイヤやマットを使いイメージしたものを自分たちで作って楽しんでいます。ある日、ひとりが家を作り始めると、その家に行ける乗り物があるといいねという話になり、色々なところに行けるバイクを作ることになりました。タイヤとフープを紐でつなげハンドルにしたり、横にマットを敷いてサイドカーにしたり、それぞれがイメージしたものを形にしていきます。すると、2歳児がバイクに乗ろうとし、始めは「さくらのだから乗っちゃだめ」という子がいたので「かっこいいから乗りたいのかな。もう一つ席を作ってあげたらどう」と提案すると明るい表情に変わり「いいよ」と作り始めました。席ができ2歳児が乗ると、嬉しそうに「こう座るんだよ」と教えていました。友達と一緒に遊ぶことを楽しみながらも、年下の子を思いやる気持ちも少しずつ育っていると感じました。



すみれ組 「どろけい」

警察チームと泥棒チームに分かれて鬼ごっこ(どろけい)を楽しんでいます。警察が泥棒を捕まえると、捕まった子は「あー、もう捕まった」と悔しそうですが、仲間の泥棒が助けに来てタッチすると「やった」と全速力で牢屋から出て走って行きます。警察が「泥棒が助けに来ないように見張り番する」と牢屋の前で両手を広げました。助けにきた泥棒は警察に見張られているため「あーだめだー」と引き返してきました。泥棒の保育士が「先生が牢屋の前の警察を引き付けるから、いなくなったら助けてあげて」と言うので「わかった」と言い、警察がいなくなったすきに牢屋に走って行き、仲間の泥棒を助けることが出来ました。繰り返し行う中で、子どもたちなりにどうしたら勝てるか作戦を立てることも、どろけいの楽しみです。そして、作戦が成功することも継続して楽しむ姿に繋がっていると感じます。



ひまわり組 「トンネルからの川づくり」

園庭に出ると乳児クラスが作った砂山が残っていました。自分たちの手でもっと大きくしようと砂山作りが始まりました。砂山を大きくし、トンネルをいくつか繋げているとトンネルが崩れてしまいました。直そうとしても上手く元に戻りません。しかし、崩れた砂をよけてみるとトンネルの跡が道のようになっていて、「川みたい」と延ばし始めました。その道を延ばす子、周りを固める子と分かれて広がっていく中で「水が通るかな」「水は上から下に流れるんだよ」と話し始め、スコップを横に置いてみて「こっちの方が高い」と気付くとその部分を掘り下げています。いくつかのコースが出来ると保育士に水を流してほしいと頼んできました。季節は冬、それでも自分たちが作ったコースに水が流れるのかどうか見たかったのでしょう。思いに応じて、保育士が山の上からバケツで水を流すと「流れた」「こっちにも来た」「ここまでは来なかった」とコースが川になっていく様子に一喜一憂です。全てのコースに流れなかったことに残念そうにしながらも、トンネルから遊びが広がったことが楽しく、翌日も続けていました。

